
8 8 8 匹目の羊

cokoly

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

888匹目の羊

【Nコード】

N0162D

【作者名】

cokoly

【あらすじ】

眠れなくて羊を数えていたら、そのうちの一匹が柵を跳び越えられずにこけてしまい、僕の目の前に転がってきた。僕は眠りの入り口でしばらく羊と会話した。

眠れなくて888匹目の羊を数えようとしたとき、その羊は柵を越えられずに足を引っかけ、僕の方に向かってもんどりうつて倒れてきた。僕は驚きのあまり眠る事すら忘れて羊の様子を窺った。

「おい、だいじょうぶか？」

「ああん、もう。やつちやつたよお」

羊は幼い子供に特有のちよつと鼻にかかったような甲高い声をあげて自らの不幸をのしつた。

「血が出てるじゃないか」

僕は羊の膝の辺りににじんでいた血を見て、けがの様子を見ようと近寄ろうとしてみたが何故か前に進めなかった。

何も見えない目の前の空間に、分厚い密度の空気が柔らかい壁をつくっているみたいだ。

「だめだめ、入ってきちゃダメだよ。ここは羊しか入れないの」

「でも、痛そうだよ。他の羊はいないのかい」

僕は辺りを見回してみたが、不思議な事に羊の牧場だと思っていた場所は目の前のほんの小さな空間に限られていて、887匹めまでの羊がきちんと飛び越えていた柵の周辺以外は暗い靄がかかったようになっていた。考えてみれば羊を数えるときは柵と羊以外の牧場の様子などはまったく考えた事がなかったので、それは気付かなかったただけで今更ですつとこうだったのだろう。

「ここは言ってみれば舞台の上だから、他の皆は手出しできないんだよ。余程の事じゃない限り」

「そのけがは、余程のうちには入らないのかな？」

「けががどうこう言うよりは、そもそも他の皆には見えてないんだ。ここは特別な場所だから」

「そうなのかい？」

「人間の眠りの入り口が、ぼくら羊の世界と一瞬だけコンタクトを

取れるんだ。ここはそう言う場所」

「でも、もう何匹も数えたんだぜ」

「言つたる？一瞬だけだつて。ちゃんと順番があつて、一匹ずつしか出て来れない決まりになつてゐるんだ。それに、君は知らないだろうけど、羊は全部で300匹しか居ないんだ。もう三巡目でみんなくたくたになつてゐる。いいかげん早く寝てくれよ。おお、痛い」

「それは、初耳だよ……」

「当たり前だよ。機密情報だからねえ。あ、言つちやつた、どうしよう。秘密なのに」

この羊はどうやらずいぶん不器用なキャラクターらしいな、と僕は思つた。

「だいじょうぶ、誰にも言わないよ」

「頼むよ。他の羊に会つても言つちやだよ」

「でも君、けつこう僕と話し込んでるけど、時間の方はだいじょうぶなのかい？」

「あああ、全然だいじょうぶじゃないよう。行かなきゃいけないけど、頼むよ、他の皆には黙つててくれよ」

「わかつたわかつた。もう行きなよ。僕もできれば早く寝たいんだ。迷惑かけたい訳じゃないんだよ」

「わかつたよ。でも黙つててよ。早く寝なよ」

羊はそう言つてけがした足を引きずりながら柵の反対側へ消えて行つた。

すると間髪入れずに889匹目の羊が柵をきれいに飛び越えて、その次も、またその次も羊は柵を飛び続けた。

気のせいのか、889匹目の羊が、柵を飛び越える時にちらりと僕の方を見ていた気がする。そしてその次の羊も、またその次の羊も、何が気になるのか、柵を跳び越えるときに僕の方をちらちらと見るようになつていたのだ。早く寝るとでも言いたいのか。

それから30匹くらい数えて、僕は半ば無理矢理に目を開けて、羊を数えるのをやめた。

もう少しで眠れる気がするのだが、羊の目が気になってしまう。
ほとんど半分夢の中にいるような頭で、僕はふらふらと台所へ行っ
て、胃袋がいっぱいになるほど水を飲んだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0162d/>

888匹目の羊

2010年10月10日01時06分発行